

■テーマ展

「新指定文化財」展

会期 平成19年5月19日(土)～7月1日(日) 会場 特別展示室

今回の新指定文化財展は、平成17年以降に国や県から指定あるいは選定、登録になった文化財を紹介する展覧会です。

先頃、文化庁は「ふるさと文化財の森」を全国に8か所選びました。そのうち、本県から漆で浄土寺漆林と、赤松で岩手大学滝沢演習林が設定されました。文化的建造物を修理する資材と、これらに関する技能者を育成するためです。岩手は文化財と文化財を守る資材と技術も豊富などころでもありとも言えるわけです。日常の生活の中で、あたりまえのこととして連綿と大切に伝えてきた風土に感謝したいものです。

これらのかけがえのない岩手の宝をこの機会に是非、直接ご覧いただきたいものです。

史跡に一戸町の御所野遺跡の東部と、名勝として、イーハトーブの風景地にイギリス海岸が追加指定され、新たに二戸市の男お神岩がみいわと女神岩めがみいわと鳥越山とりごえやまが指定されました。男神岩と女神岩は馬仙峽ばせんきょうと呼ばれ、茶色の安山岩が緑の樹木から屹立する姿や、鳥越山山頂付近南面崖地の火成岩の脆弱部分が空洞化して形成された洞穴に祀られる鳥越観音などが鑑賞上の価値が高いと評価されてのことです。また、平成17年度より始まった新しい文化財保護の手法である国の重要文化的景観には一関本寺の農村景観が選定されました。滋賀県近江八幡の水郷に続く第2号の選定です。これらの文化財は写真パネルで紹介します。



房の沢古墳出土刀剣類
(山田町教育委員会蔵・写真提供)

考古資料として山田町房の沢古墳群出土品が県指定となりました。7世紀末から8世紀前半のもので、武器、馬具、農具、土師器、須恵器、錫釧すすくしろ、切子玉など豊富で、特に刀剣類は保存状態が良く、鞘さやなどの様子がよくわかる資料であり、錫釧や黒曜石、須恵器は北海道から東南北部までの交流を考える上で貴重な資料です。実物を展示します。

料)を、6月16日(土)には黒森神楽保存会の皆様によります神楽の公演、当館芝生広場(雨天時は屋外グランドホール)(13:30～15:30、当日受付、鑑賞無料)があります。プログラムは、「打ち鳴らし(入場)」、「清祓」、「松迎え」、「山の神舞」、「権現舞」です。行事の詳細は本紙8ページのインフォメーションをご覧ください。



黒森神楽「松迎え」(宮古市教育委員会 写真提供)

無形民俗文化財では、宮古市の黒森神楽くろもりかぐらが国指定重要無形民俗文化財となりました。宮古から北廻りと、南廻り隔年交互の巡行じゆんぎやうで知られ、神楽宿での多彩な夜神楽や、新築祝いなどの儀礼と密接に結びついていることなど、全国的に類例の少ない貴重な神楽です。神社が南北朝時代には存在したことを証明する、県指定文化財の権現様ごんげんさま(獅子頭ししがしら)と建武元年銘鉄鉢、応安三年てつぱち棟札などを展示します。

なお、会期中の6月3日(日)には宮古市教育委員会の假屋雄一郎先生を講師に迎え、神楽の巡行や歴史について当館講堂において講演(13:30～15:00、当日受付、聴講無

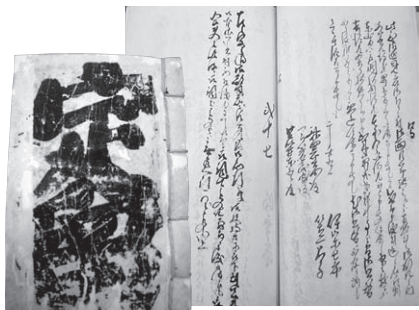
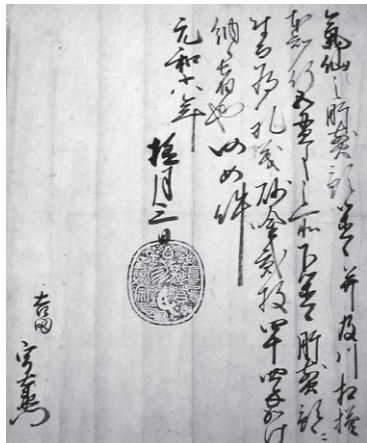


浦浜念仏剣舞
先祖供養のための庭踊り(2006.8.14)

もう一つの保持団体は県の無形民俗文化財の指定となりました大船渡市三陸町越喜うらはまねんぶつけんばい来の浦浜念仏剣舞です。摂津国大物浦から

九州へ落ち延びようとする源義経一行を平家の亡霊が邪魔をします。その時、弁慶が船縁を叩きながら経文を唱え、それらを退散させた亡霊鎮めから始まったと伝えられます。今日も円満寺の施餓鬼法要や、盆の御霊供養で初盆の家をすべて廻り、追善供養を行っています。そして、踊り手が焼香するなどの儀礼的要素に特色があり、演目や踊りの伝承形態もよいのが特徴です。本展では、地域を基盤とした伝承活動に努め、後継者の育成に励む姿を写真パネルで紹介します。また、8月25日(土)には当館芝生広場で演目をご披露いただきます。

建造物では、気仙郡大肝入吉田家の主屋、土蔵、味噌蔵、納屋の4棟が県指定となりました。吉田家は代々大肝入として、気仙郡を統轄してきました。藩主の巡行や幕府の巡見使が宿泊した御座の間や庭園も見事です。代官業務日誌である『定留』(天保9年)と伊達政宗からの任命状の「伊達政宗黒印状」の関連資料を、建造物の写真パネルとともに展示します。



伊達政宗黒印状と定留



気仙郡大肝入吉田家の主屋

このほかに、国の登録有形文化財・建造物として次のものが登録あるいは答申されました。明治30年(1897)築で、波形軒板付破風と縦長窓が特徴的な旧専売局千歳煙草専売所。遠野ふるさと村に移築された旧菊池喜右エ門家・旧菊池サイ家・旧鈴木家住宅・旧菊池家住宅の4棟は、曲がり屋以前の古い形式から、中2階を持つ奥常居間取りのもの、土間や馬屋部分が大きくなったもの、床の間付の奥座敷と座敷以外は板の間にしたものなど、それぞれの特徴があります。岩手県公会堂は昭和2年(1927)築で玄関奥に階段室、その奥に中庭、後部に大ホールを置いています。垂直性を強調し、外壁のスクラッチタイルが印象的な建物です。日本基督教団一関教会は昭和4年(1929)築。正面向かって右側に尖塔を持つ玄関があります。玄関ホール・事務室・礼拝堂からなり、随所にポイントド・アーチが見られます。カラー鉄板かわらぼうぶききりつまやね瓦棒葺切妻屋根と尖塔部分は方形屋根で十字架が頂部に置かれています。これらも写真パネルで紹介いたします。

県指定の工芸品としては、盛岡南部家の金ほおずき大馬印と紅亀甲網旗馬印を展示します。味方に総大将の居所を示すために用いられたものです。金ほおずきは紙張りに漆塗りの下地に金箔で仕上げた酸漿(鬼灯)を朱の絹糸で編んだ網で覆っています。萼二枚で実を包むようになっています。網旗馬印は、樺糸の亀甲網表裏二枚

の間に瑞雲と向鶴紋、下段に武田菱紋を置き、周囲を金装韋で縁取りしています。大名家の馬印としても、工芸品としても大変貴重な資料です。

彫刻では、花巻湯本大日堂白山神社の嘉慶と元禄の2体の大日如来坐像が指定されました。嘉慶3年(実は改元して康応元・1389)銘像は慶長9年(1604)と享保7年(1722)に修理を受けていますが、人肌の雄渾で美しい大きな像です。2体とも半丈六仏で、胎蔵界大日となっています。棟札や古文書などから中世から現代までの信仰の変遷を知るうえでも大変貴重です。



嘉慶三年銘像(大日如来坐像)

有形民俗文化財としては、漆の実から蠟を生産した二戸地方の漆蠟関係資料と、雫石地域と玉山地域の野良着が指定を受けました。雫石の野良着はあねこ風俗で、農作業に適して機能的、合理的に構成されつつも美的配慮も随所に見られます。玉山の野良着はスッパとも呼ばれ、寒冷時の保温や酷暑時の直射日光を避け、風通しがよくできていて、刺し子で布地を補強し、長持ちさせたことがわかります。補助衣に美しく装う工夫を凝らしています。どちらも女性ならではのセンスやおしゃれ感覚にはっとさせられます。

(主任専門学芸員 佐々木勝宏)